

OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 4.2 互換性マトリックス

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: 概要	4
デフォルトの仮想アプライアンスの設定.....	4
その他の必要マニュアル.....	4
章 2: サポートされているリソース	5
ブラウザと Flash Player の要件.....	5
BIOS、iDRAC、Lifecycle Controller のバージョン.....	5
ポート情報.....	8
OpenManage Integration for VMware vCenter 要件.....	10
管理対象ホスト上のサポートされている ESXi バージョン.....	10
PowerEdge シャーシでサポートされる機能.....	11
PowerEdge サーバーでサポートされる機能.....	11
章 3: 重要なメモ	13

概要

本書には、OpenManage Integration for VMware vCenter (OMIVV)、および OMIVV ソフトウェアに付属するその他すべての技術マニュアルに対するアップデートされた情報が記載されています。

OpenManage Integration for VMware vCenter 4.2 では、次の機能が提供されます。

- vSAN クラスタがサポートされるように既存のクラスタ対応更新を強化。ドライバとファームウェアのアップデートをサポート。
- ドライバ、ファームウェア、ハードウェア構成、およびドリフト検出に対して vSAN クラスタのベースラインを設定する機能。
- システムプロファイルの属性を含める / 除外する機能
- 新しい第 14 世代プラットフォームのサポート
- SMB2 CIFS のサポート
- OMSA 9.1 のサポート
- vSphere 6.7 のサポート

① **メモ:** OMIVV 4.0 以降では、VMware vSphere Web クライアントのみがサポートされ、vSphere Desktop クライアントはサポートされません。

① **メモ:** vCenter 6.5 以降では、OMIVV アプライアンスは、Flash バージョンでのみ使用できます。OMIVV アプライアンスは HTML5 バージョンでは使用できません。

トピック：

- デフォルトの仮想アプライアンスの設定
- その他の必要マニュアル

デフォルトの仮想アプライアンスの設定

表 1. 展開モードのシステム要件

展開モード	ホストの数	CPU の数	メモリ (GB)	最小構成のストレージ
小規模	最大 250	2	8	44 GB
中規模	最大 500	4	16	44 GB
大	最大 1000	8	32	44 GB

① **メモ:** 上述の展開モードのいずれについても、予約機能を使用して OMIVV 仮想アプライアンスに十分なメモリリソースが確実に予約されているようにします。メモリリソースの予約についてのステップは、vSphere のマニュアルを参照してください。

その他の必要マニュアル

次の vSphere Web クライアント用マニュアルのリストについては、[Dell.com/support/manuals] にアクセスしてください。

- 『OpenManage Integration for VMware vCenter Version 4.2 Web Client User's Guide』(OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 4.2 Web クライアントユーザーズガイド)
- 『OpenManage Integration for VMware vCenter Version 4.2 Web Client Installation Guide』(OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 4.2 Web クライアントインストールガイド)
- 『OpenManage Integration for VMware vCenter Version 4.2 Release Notes』(OpenManage Integration for VMware vCenter 4.2 リリースノート)

サポートされているリソース

本章には、OpenManage Integration for VMware vCenter をサポートするリソースに関する情報が記載されています。

トピック：

- ブラウザと Flash Player の要件
- BIOS、iDRAC、Lifecycle Controller のバージョン
- ポート情報
- OpenManage Integration for VMware vCenter 要件
- PowerEdge シャーシでサポートされる機能
- PowerEdge サーバーでサポートされる機能

ブラウザと Flash Player の要件

OpenManage Integration for VMware vCenter を表示するには、システムに最小 1,024 x 768 の画面解像度と、オペレーティングシステムに基づく最小要件を満たす Web ブラウザが必要です。

- ① メモ:** ブラウザと Flash Player の要件は、OpenManage Integration for VMware vCenter に対する VMware ガイドラインの通りです。サポートされる Web ブラウザは、Microsoft Internet Explorer、Google Chrome、および Mozilla Firefox です。具体的なブラウザバージョンについては、お使いの vCenter 用の VMware のマニュアルを参照してください。
- ② メモ:** Windows Server 2012 以降から OpenManage Integration for VMware vCenter にアクセスするには、デスクトップエクスペリエンス機能を有効にして、Flash Player をアクティブにします。すべての ESXi ホストに OpenManage Integration for VMware vCenter (仮想アプライアンス) をインストールします。

表 2. vCenter Server バージョンに対する Flash Player の要件

vCenter バージョン	Flash Player のバージョン
v5.0 ~ v5.5	11.5.0 以降
v6.0 以降	16.0 以降

BIOS、iDRAC、Lifecycle Controller のバージョン

本項では、OpenManage Integration for VMware vCenter の機能を有効にするために必要な BIOS、iDRAC、および Lifecycle Controller のバージョンを示します。

OMIVV を使用する前に、Repository Manager、または Lifecycle Controller のプラットフォームを使用して作成されたブータブル ISO を使用してお使いのサーバのバージョンを次のいずれかにアップデートすることをお勧めします。

表 3. PowerEdge 第 11 世代サーバ向けの BIOS

サーバー	最小バージョン
PowerEdge R210	1.8.2 以降
PowerEdge R210II	1.3.1 以降
PowerEdge R310	1.8.2 以降
PowerEdge R410	1.9.0 以降
PowerEdge R415	1.8.6 以降
PowerEdge R510	1.9.0 以降

表 3. PowerEdge 第 11 世代サーバ向けの BIOS (続き)

サーバー	最小バージョン
PowerEdge R515	1.8.6 以降
PowerEdge R610	6.1.0 以降
PowerEdge R710	6.1.0 以降
PowerEdge R710	6.1.0 以降
PowerEdge R715	3.0.0 以降
PowerEdge R810	2.5.0 以降
PowerEdge R815	3.0.0 以降
PowerEdge R910	2.5.0 以降
PowerEdge M610	6.1.0 以降
PowerEdge M610x	6.1.0 以降
PowerEdge M710HD	5.0.1 以降
PowerEdge M910	2.5.0 以降
PowerEdge M915	2.6.0 以降
PowerEdge T110 II	1.8.2 以降
PowerEdge T310	1.8.2 以降
PowerEdge T410	1.9.0 以降
PowerEdge T610	6.1.0 以降
PowerEdge T710	6.1.0 以降

表 4. PowerEdge 第 12 世代サーバ向けの BIOS

サーバー	最小バージョン
T320	1.0.1 以降
T420	1.0.1 以降
T620	1.2.6 以降
M420	1.2.4 以降
M520	1.2.6 以降
M620	1.2.6 以降
M820	1.2.6 以降
R220	1.0.3 以降
R320	1.2.4 以降
R420	1.2.4 以降
R520	1.2.4 以降
R620	1.2.6 以降
R720	1.2.6 以降
R720xd	1.2.6 以降
R820	1.7.2 以降
R920	1.1.0 以降

表 5. PowerEdge 第 13 世代サーバ向けの BIOS

サーバー	最小バージョン
R630	1.0.4 以降
R730	1.0.4 以降
R730xd	1.0.4 以降
R430	1.0.4 以降
R530	1.0.2 以降
R830	1.0.2 以降
R930	1.0.2 以降
R230	1.0.2 以降
R330	1.0.2 以降
T630	1.0.2 以降
T130	1.0.2 以降
T330	1.0.2 以降
T430	1.0.2 以降
M630	1.0.0 以降
M830	1.0.0 以降
FC430	1.0.0 以降
FC630	1.0.0 以降
FC830	1.0.0 以降

表 6. PowerEdge 第 14 世代サーバ向けの BIOS

サーバー	最小バージョン
R940	1.0.0 以降
R740	1.0.0 以降
R740xd	1.0.0 以降
R640	1.0.0 以降
M640	1.0.0 以降
T640	1.0.0 以降
T440	1.0.0 以降
R540	1.0.0 以降
FC640	1.0.0 以降
R6415	1.0.0 以降
R7425	1.0.0 以降
R7415	1.0.0 以降

表 7. 展開用の iDRAC および Lifecycle Controller

世代	バージョン	
	iDRAC	Lifecycle Controller
PowerEdge 第 11 世代サーバ	モジュラーには 3.35、ラックまたはタワーには 1.85	1.5.2 以降

表 7. 展開用の iDRAC および Lifecycle Controller (続き)

世代	バージョン	
PowerEdge 第 12 世代サーバ	1.00.0 以降	1.0.0.3017 以降
PowerEdge 第 13 世代サーバ	2.30.30.30 以降	2.30.30.30 以降
PowerEdge 第 14 世代サーバ	3.00.00.00 以降	3.00.00.00 以降

表 8. クラウドサーバの BIOS と iDRAC の要件

モデル	BIOS	Lifecycle Controller 使用 iDRAC
C6320	1.0.2	2.30.30.30 以降
C4130	1.0.2	2.30.30.30 以降
C6420	1.0.0 以降	3.00.00.00 以降
C4140	1.0.0 以降	3.00.00.00 以降

ポート情報

仮想アプライアンスと管理ノード

OMIVV で [非対応 vSphere ホストの修正] ウィザードの [準拠ホストの修正リンク](#) を使用して OMSA エージェントを導入する場合、OMIVV では次のアクションを実行します。

- HTTP クライアントサービスを開始する
- ポート 8080 を有効にする
- ESXi 5.0 以降で OMSA VIB をダウンロードしてインストールするためのポートを利用できるようにする

OMSA VIB のインストールが完了したら、サービスは自動的に停止し、ポートは閉じられます。

表 9. 仮想アプライアンス

ポート番号	プロトコル	ポートタイプ	最大暗号化レベル	方向	送信先	使用状況	説明
53	DNS	TCP	なし	出力	OMIVV アプライアンスから DNS サーバへ	DNS クライアント	DNS サーバへの接続またはホスト名の解決。
69	TFTP	UDP	なし	出力	OMIVV アプライアンスから TFTP サーバへ	TFTP クライアント	ファームウェアが古くなった 11G サーバのファームウェアアップデートに使用。
80	HTTP	TCP	なし	出力	OMIVV アプライアンスからインターネットへ	Dell オンラインデータアクセス	オンライン (インターネット) 保証、ファームウェア、最新 RPM 情報への接続。
80	HTTP	TCP	なし	入力	ESXi サーバから OMIVV アプライアンスへ	HTTP サーバ	OMIVV アプライアンスと通信するためのポストインストールスクリプト用の OS 導入フローで使用。
162	SNMP エージェント	UDP	なし	入力	iDRAC/ESXi から OMIVV アプライアンスへ	SNMP エージェント (サーバ)	管理対象ノードからの SNMP トラップ受信用。
443	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	OMIVV UI から OMIVV アプライアンスへ	HTTPS サーバ	OMIVV が提供する Web サービス。vCenter Web クライアントおよび Dell 管理ポータルで使用。
443	WSMAN	TCP	128 ビット	入力 / 出力	OMIVV アプライアンスと	iDRAC/OMSA 通信	管理対象ノードの管理および監視に使用する iDRAC、OMSA、および CMC 通信。

表 9. 仮想アプライアンス (続き)

ポート番号	プロトコル	ポートタイプ	最大暗号化レベル	方向	送信先	使用状況	説明
					iDRAC/OMSA 間		
445	SMB	TCP	128 ビット	出力	OMIVV アプライアンスから CIFS へ	CIFS 通信	Windows 共有との通信用。
4433	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	iDRAC から OMIVV アプライアンスへ	自動検出	管理対象ノードの自動検出に使用するプロビジョニングサーバ。
2049	NFS	UDP/TCP	なし	入力 / 出力	OMIVV アプライアンスから NFS へ	パブリック共有	OMIVV アプライアンスによって管理対象ノードに公開される NFS パブリック共有。ファームウェアアップデートおよび OS 導入のフローで使用。
4001 ~ 4004	NFS	UDP/TCP	なし	入力 / 出力	OMIVV アプライアンスから NFS へ	パブリック共有	OMIVV アプライアンスによって管理対象ノードに公開される NFS パブリック共有。ファームウェアアップデートおよび OS 導入のフローで使用。
11620	SNMP エージェント	UDP	なし	入力	iDRAC から OMIVV アプライアンスへ	SNMP エージェント (サーバ)	管理対象ノードの管理および監視に使用する iDRAC、OMSA、および CMC 通信。
ユーザー定義	任意	UDP/TCP	なし	出力	OMIVV アプライアンスからプロキシサーバへ	プロキシ	プロキシサーバとの通信

表 10. 管理対象ノード (ESXi)

ポート番号	プロトコル	ポートタイプ	最大暗号化レベル	方向	送信先	使用状況	説明
162、11620	SNMP	UDP	なし	出力	ESXi から OMIVV アプライアンスへ	ハードウェアイベント	ESXi から送信される非同期 SNMP トラップ。ESXi からこのポートを開く必要あり。
443	WSMAN	TCP	128 ビット	入力	OMIVV アプライアンスから ESXi (OMSA) へ	iDRAC/OMSA 通信	管理ステーションへの情報提供に使用。ESXi からこのポートを開く必要あり。
443	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	OMIVV アプライアンスから ESXi へ	HTTPS サーバ	管理ステーションへの情報提供に使用。ESXi からこのポートを開く必要あり。
8080	HTTP	TCP	128 ビット	出力	ESXi から OMIVV アプライアンスへ	HTTP サーバ (OMSA VIB をダウンロードし、非準拠 vSphere ホストを修正)	ESXi による OMSA / ドライバ VIB のダウンロードに使用。

表 11. 管理対象ノード (iDRAC/CMC)

ポート番号	プロトコル	ポートタイプ	最大暗号化レベル	方向	送信先	使用状況	説明
443	WSMAN /HTTPS	TCP	128 ビット	入力	OMIVV アプライアンスから iDRAC/CMC へ	iDRAC 通信	管理ステーションへの情報提供に使用。iDRAC および CMC からこのポートを開く必要あり。

表 11. 管理対象ノード (iDRAC/CMC) (続き)

ポート番号	プロトコル	ポートタイプ	最大暗号化レベル	方向	送信先	使用状況	説明
4433	HTTPS	TCP	128 ビット	出力	iDRAC から OMIVV アプライアンスへ	自動検出	管理ステーションでの iDRAC (管理対象ノード) の自動検出用。
2049	NFS	UDP	なし	入力 / 出力	iDRAC と OMIVV 間	パブリック共有	OMIVV アプライアンスによって公開された NFS パブリック共有に iDRAC がアクセスするために使用。OS 導入およびファームウェアアップデートに使用。 OMIVV から iDRAC 設定にアクセスするために使用。導入フローで使用。
4001 ~ 4004	NFS	UDP	なし	入力 / 出力	iDRAC と OMIVV 間	パブリック共有	OMIVV アプライアンスによって公開された NFS パブリック共有に iDRAC がアクセスするために使用。OS 導入およびファームウェアアップデートに使用。 OMIVV から iDRAC 設定にアクセスするために使用。導入フローで使用。
69	TFTP	UDP	128 ビット	入力 / 出力	iDRAC と OMIVV 間	トリビアルファイル転送	管理ステーションから iDRAC を正常に管理するために使用。

OpenManage Integration for VMware vCenter 要件

管理対象ホスト上のサポートされている ESXi バージョン

次の表は、管理対象ホスト上でサポートされている ESXi バージョンに関する情報を提供するものです。

表 12. サポートされている ESXi バージョン

ESXi バージョンサポート	サーバの世代			
	第 11 世代	第 12 世代	第 13 世代	第 14 世代
v5.0	はい	はい	いいえ	いいえ
v5.0 U1	はい	はい	いいえ	いいえ
v5.0 U2	はい	はい	いいえ	いいえ
v5.0 U3	はい	はい	いいえ	いいえ
v5.1	はい	はい	いいえ	いいえ
v5.1 U1	はい	はい	いいえ	いいえ
v5.1 U2	はい	はい	はい	いいえ
v5.1 U3	はい	はい	はい (M830、FC830、FC430 を除く)	いいえ
v5.5	はい	はい	いいえ	いいえ
v5.5 U1	はい	はい	いいえ	いいえ
v5.5 U2	はい	はい	はい	いいえ
v5.5 U3	はい	はい	はい	いいえ
v6.0	はい	はい	はい	いいえ

表 12. サポートされている ESXi バージョン (続き)

ESXi バージョンサポ ート	サーバの世代			
	第 11 世代	第 12 世代	第 13 世代	第 14 世代
v6.0 U1	はい	はい	はい	いいえ
v6.0 U2	はい	はい	はい	いいえ
v6.0 U3	はい	はい	はい	はい
v6.5	いいえ	はい	はい	いいえ
v6.5 U1	いいえ	はい	はい	はい
v6.7	いいえ	はい	はい	はい

OpenManage Integration for VMware vCenter は、次の vCenter サーババージョンのすべてをサポートします。

表 13. サポートされている vCenter サーババージョン

vCenter バージョン	Web クライアントサポート
v6.0 U2	はい
v6.0 U3	はい
v6.5	はい
v6.5 U1	はい
v6.7	はい

メモ: vCenter サーバを登録する方法の詳細については、Dell.com/support/manuals で提供されている『*OpenManage Integration for VMware vCenter Version 4.2 Web Client Install Guide*』(OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 4.2 Web クライアントインストールガイド) を参照してください。

OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 4.2 は、VMware vRealize Operations Manager (vROPS) バージョン 1.1 および 1.2 をサポートします。

PowerEdge シャーシでサポートされる機能

このトピックには、PowerEdge シャーシでサポートされる機能に関する情報が記載されています。

表 14. モジュールインフラストラクチャでサポートされる機能

機能	M1000e	VRTX	FX2S
SNMP アラート	はい	はい	はい
ハードウェアインベントリ	はい	はい	はい
CMS のリンクと起動	はい	はい	はい
ライセンス情報	該当なし	はい	はい
保証情報	はい	はい	はい
正常性レポート	はい	はい	はい

PowerEdge サーバーでサポートされる機能

次の機能は、OpenManage Integration for VMware vCenter によって管理されているホスト上でサポートされるものです。

表 15. PowerEdge サーバーでサポートされる機能

リソース	プラットフォーム		
	第 11 世代	第 12/13 世代	第 14 世代
ハードウェアインベントリ	はい	はい	はい
イベントとアラーム	はい (SNMP v1 のみ)	はい (SNMP v1 および v2)	はい (SNMP v1 および v2)
コンポーネント毎の正常性監視*	はい	はい	はい
BIOS / ファームウェアアップデート#	はい	はい	はい
Proactive HA\$	いいえ	はい	はい
保証情報	はい	はい	はい
ホスト準拠	はい	はい	はい
ベアメタルサーバの自動 / 手動検出	はい	はい	はい
ベアメタル準拠	はい	はい	はい
ハードウェア構成	はい	はい	はい
ベアメタルハイパーバイザー展開	はい	はい	はい
サーバー LED の点滅	はい	はい	はい
SEL ログの表示 / クリア	はい	はい	はい
iDRAC のリンクと起動	はい	はい	はい
iDRAC のリセット	はい	はい	はい
システムロックダウンモード	いいえ	いいえ	はい
システムプロファイル	いいえ	いいえ	はい
クラスタプロファイル	いいえ	はい^	はい

* モデル番号 C6320 のクラウドでは、メザニンカードの正常性監視はサポートされていません。

モデル番号 C6320 のクラウドでは、メザニンカードのファームウェアアップデートはサポートされていません。

\$ Proactive HA 機能は、ESXi 6.0 以降を搭載する vCenter 6.5 以降にのみ適用されます。また、Proactive HA 機能は、PSU 内蔵型のサーバおよびクラウドサーバモデルではサポートされません。

^ クラスタプロファイルでは、構成ドリフトはサポートされていません。

重要なメモ

本項では、OpenManage Integration for VMware vCenter で作業しているときに考慮する必要がある重要情報について説明します。

- OMIVV は、ターゲットサーバにハイパーバイザーを展開するために BIOS モードをサポートします。ハイパーバイザープロファイルを適用する前に、参照ハードウェアプロファイルで BIOS モードが選択されていることを確認してください。ハードウェアプロファイルが選択されていない場合は、手動で起動モードを BIOS に設定し、サーバを再起動してからハイパーバイザープロファイルを適用するようにしてください。
 - OMIVV は、現在「Public」または「public」という名前のコミュニティのみをサポートしています。SNMP コミュニティ名は設定できません。別のコミュニティ名が使用されている場合、OMIVV によってイベントが受信されないため、イベントは VMware vCenter には表示されません。
 - 参照サーバの BIOS バージョンによっては、そのサーバで作成されたハードウェアプロファイルが展開失敗の原因となる場合があります。一部の BIOS バージョンは、内蔵 NIC1 および NIC2 設定などの特定の BIOS 設定に対して正確な情報を提供しません。ハードウェアプロファイルで最小の BIOS バージョンのサーバを参照サーバとして使用すると、それらのフィールドは UI および展開の両方によって無視されます。これにより問題が発生します。ただし、問題が発生するのは、展開を正常に完了するために当該設定に特定の値が必要である場合です。この問題を解決するには、最新 BIOS を備えたサーバをハードウェアプロファイルの参照サーバとして使用します。
- i** **メモ:** 展開に使用されるサーバでは、BIOS もアップデートされている必要があります。BIOS に問題があるサーバに対して展開時に設定を適用しようとすると、展開が失敗します。現在、BIOS バージョンは、対応性についてチェックされませんが、サーバ準拠 ページには表示されます。影響を受けるハードウェアプロファイルを含む展開テンプレートを展開時に選択すると、ハードウェアプロファイル参照サーバ ページと BIOS 設定 ページに警告が表示されます。
- FQDN(完全修飾ドメイン名)を使用して VMware vCenter に OMIVV を登録することを強くお勧めします。FQDN ベースの登録では、vCenter のホスト名は DNS サーバによって適切に解決される必要があります。
- i** **メモ:** vSphere の DNS の要件の詳細については、次のリンクを参照してください。
- [vSphere 5.5 の DNS 要件](#)
 - [vSphere 6.0 の DNS 要件](#)
 - [vSphere 6.5 および Platform Services Controller アプライアンスの DNS 要件](#)
- クラウドサーバでは、iDRAC Enterprise ライセンスが必要です。
 - デフォルトの SNMP コミュニティ文字列は public です。SNMP コミュニティ文字列は、[管理] > [設定] > [アプライアンスの設定] > [OMSA SNMP トラップコミュニティ文字列] から設定できます。
 - OMIVV は、サーバメッセージブロック (SMB) バージョン 1.0 および SMB バージョン 2.0 ベースの CIFS 共有のみをサポートします。
 - vSAN ファームウェアアップデートは、第 11 世代 PowerEdge サーバではサポートされていません。